www.scout.or.jp

Compass of Scouts

コンパス オブ スカウツ

のぞいてみよう、
四季折々の冒険を！
2024

そなえよつねに
ボーイスカウト

CONTENTS

02 ようこそ、ボーイスカウトの世界へ！

03 全国で展開されている
ボーイスカウトの活動体験記

17 集え世界中のスカウト！
毎年開催されるオンラインジャンボリー
JOTA-JOTI

18 第25回全国スカウトフォーラム

19 2024年度［2025年1月実施］
日韓スカウト交歓計画

20 Rover Scout WORKSHOP 2024

21 令和6年能登半島地震
– 被災地支援活動に参加して –

22 2024（令和6）年度 ［第43回］
富士スカウト代表表敬

2024年度 スカウトの日

23 第19回日本スカウトジャンボリー
大会テーマ決定！
挑戦 ～神石から未来への一歩

24 スカウト活動を通して成長した
若手スカウトが社会でどのように
活躍しているかインタビューしました！

26 すべての子どもに、
未来を照らす冒険を。

28 私たちの運動は
皆さまに支えられています

30 未来を照らす冒険に、あなたの力を。

31 公益財団法人として信頼される
ガバナンス体制に基づく健全な
財務運営

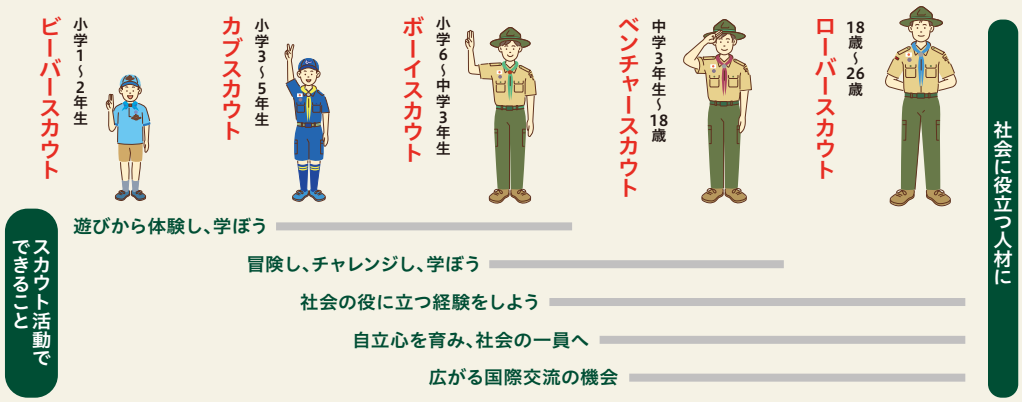
ようこそ、ボーイスカウトの世界へ！

Compass of Scouts とは

私たちボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる、世界最大級の青少年教育運動です。

広報誌 Compass of Scouts では、ボーイスカウトのことをご存知ない方々にもわかりやすく、全国各地での私たちのバラエティーに富んだ活動、そして多様な体験活動の機会についてお伝えすることを目指しています。

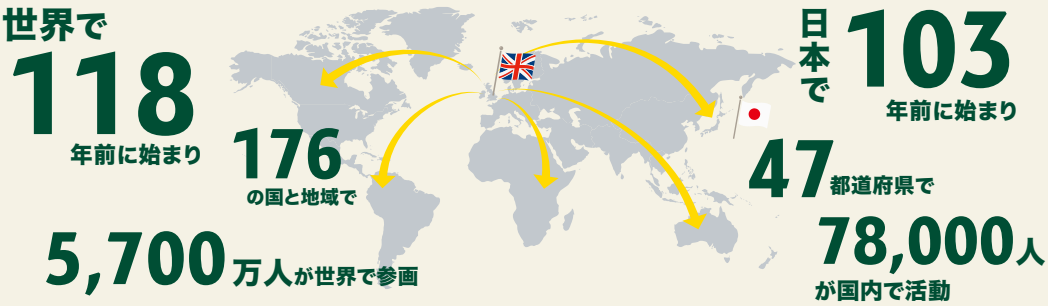
ボーイスカウトの世界では子どもたちの年齢に応じて、成長段階を考慮した５つの部門で活動を展開しています。男女問わず、全国各地で活動中です。私たちは野外活動を中心とした各種プログラムを通じて、多くの体験と成長の機会を子どもたちに届けています。ここでしか学べないスキルと体験から、子どもたちの「生きる力」と「活きる力」を育むことができます。



そんなボーイスカウトの活動は全国各地のボランティアの方々によって支えられています。

イギリスで始まったボーイスカウト運動は世界に広がり、日本での歴史も100年以上となりました。今では世界176の国と地域で5,700万人以上が活動しています。※2024年8月現在

私たちの活動は子どもたちの好奇心と成長、それを支えるボランティアの方々の熱意によって100年以上のバトンを繋いできました。私たちは、人や社会のため、地球のために行動できる人材を育て、社会に送り出すことを目指しています。



そんな私たちボーイスカウトの、未来を照らす活動の世界を、ぜひのぞいてみてください。

人と地球によりよい未来を

全国で展開されている

ボーイスカウトの活動体験記

2024年度※に海外・オンラインを含めた全国での活動記事をご紹介します。

※前号の COMPASS に記載の夏季事業を除く

P. 4

水辺での大接戦！

P. 4

さいたま第１団発団
75周年記念デイキャンプ

P. 5

我が団は昔から優秀団！？

P. 5

銚子第３団の活動の
ご紹介

P. 6

第75回神奈川県更生保護大会
において法務大臣感謝状を受彰

P. 6

先輩と、プロと、
特別な日。

P. 7

話して決めよう！
「高校生年代」ができることって何だろう？

P. 7

２つの県大会

P. 8

合同月の輪隊舎営

P. 8

日米ジョイントキャンプで
異文化体験

P. 9

室伏広治スポーツ庁長官に
お会いして！

P. 9

三河尾張野営三河湾大会を
愛知県蒲郡市・西尾市で開催

P. 10

愛知連盟ハイアドベンチャー
プログラム2025

P. 10

友情の架け橋は永遠に
―愛知連盟＆ソウル北部連盟
友好提携30周年記念事業を開催

P. 11

第19回 HRS 交流会
～僕らの無人島生活～

P. 11

つくろう！
ぼくらのひみつきち

P. 12

やりたいをやんなくちゃ！
わたしたちの夏祭り出店繁盛記

P. 12

小旅行2025 子どもたちの
『住吉詣』（すみよしもうで）

P. 13

モンベル・フレンドフェア大阪に
出展　会場に響く鳥の声

P. 13

石川の仲間に届け！

P. 14

三浦から山口へ！ ボーイ隊
40th Anniversary Camp

P. 14

飯坂温泉へ
伝説の宝を探しに！

P. 15

初めての海外、
初めてのホームステイ

P. 15

フィリピン・フレンドシップ
キャンポリー参加報告

P. 16

海外も国内も！
繋がる喜び JOTA-JOTI

P. 16

おにぎりだいさくせん
―おにぎりで世界とつながる―

※執筆者の所属は応募当時の所属・役務で掲載しています。

お住まいの地域の活動拠点はどこ？

日本連盟の Web サイトでは全国の活動拠点を検索することができます。あなたのお住まいの地域の活動拠点を探してみましょう！ 活動体験の申し込みも可能です。

https://www.scout.or.jp/team

埼玉

水辺での大接戦！

越谷第１団　カブスカウト隊隊長　野上 俊介

『水辺の大接戦 !!』をテーマに越谷レイクタウンの大相模調節池公園にてディンギー・カッターで行いました！

団の運営者が主催しているディンギー体験にご協力いただき、組立から片付けまで体験しました。

ディンギー組立の際、スタッフから『８の字結び』と『もやい結び』をする指示があり、カブの教材で学ぶ、なわ結びが実際に使われているところを知り、子どもたちは感心していました！

子どもたちが実際に乗船！ 風を動力に帆の向きを調整して進んでいくため、最初はなかなか進みたい方向へ進みませんでしたが、慣れていくにつれて風を上手く使い船を動かすことができました。

埼玉

団祭り

75周年記念式典集合写真

ミニコンサート

※アグーナリーとは障がいのある子どもたちが相集い、
海外を含めた多くの子どもたちとキャンプをする大会

さいたま第１団
発団75周年記念デイキャンプ

さいたま第１団　団委員長　越智 栄史

さいたま第１団は2024年に発団75周年を迎え以下の周年記念事業を行いました。

6月16日（日）に市民会館おおみや小ホールにさいたま市長他、多数の来賓をお招きし、記念式典を挙行しました。式典は当団の75年の歴史を振り返る、心動かすショートビデオで始まりました。続いて、清水副連盟長（さいたま市長）の祝辞、当団の OB でパリパラリンピック車椅子ラグビーヘッドコーチ岸光太郎氏からのビデオレター、そして OB でバリトン歌手の坂口卓也氏によるスカウトソングミニコンサートが行われ、大いに盛り上がりました。

そのほか、8月に開催された第13回 日本アグーナリーにさいたま第１団として単独で派遣隊を派遣しました。さらに毎年行っている団キャンプをグレードアップしたさいたま第１団祭りでは、ボーイスカウト OB で元５つ星ホテルシェフを講師に招き有志保護者の皆さんが普段のキャンプでは味わうことが出来ない本格的なフレンチ料理を野外で調理した他、年少の子どもたち向けのカレー、フルーツポンチを作り大いに盛り上がりました。

2025年は100周年に向けたスタートと位置付け始動します。

千葉

我が団は昔から優秀団 !?

浦安第２団　カブスカウト隊隊長　田代 裕貴

浦安第２団は、これまで多くの優秀なスカウトを輩出してきた歴史ある団です。昨年、地区が再編され、従来の浦安市・市川市に加えて、船橋市・習志野市・鎌ヶ谷市も加わり、新たに「なぎさ地区」として活動エリアが広がりました。

10月にはそのなぎさ地区でカブラリーが開催され、オリンピックをテーマに各組がブース運営に挑戦。子どもたちは協力して準備・運営を行い、チームワークの大切さを学びました。結果、２組が総合１位、さらに競技でも２つの種目で優勝しました。

また、今年度は「菊スカウト」「隼スカウト」など上進したスカウトの活躍も目立ち、これまでにも「富士スカウト」になった先輩たちも多数います。これからも子どもたちが楽しみながら成長できる活動を展開していきます。

千葉

銚子第３団の活動のご紹介

銚子第３団　団委員長　本谷 和弘

私たちの団は、1964年（昭和39年）、銚子市中心部にある海上山妙福寺（通称：妙見様）を団本部として発団し、60周年を迎えました。発団当初から続くエンジ色のネッカチーフは、今でも団の象徴として大切に引き継がれています。子どもたちは、銚子市内や隣の市町から集い、団本部に隣接する銚子幼稚園の講堂や園庭を拠点に楽しく活動しています。千葉県最東端に位置する銚子市は、全国有数の水揚げを誇る銚子港を擁し、豊かな自然に恵まれています。この恵まれた環境の中で、子どもたち一人ひとりの「体験」を大切にし、野外活動や奉仕活動を通じて、心身の健やかな成長を育んでいます。夏の遠征キャンプ、調理や工作など、幅広い活動を展開し、地域清掃や募金活動などの地域貢献にも力を入れています。また、50年以上続く伝統のスキー訓練は、群馬県片品村での貴重な体験として、多くの子どもたちが楽しみにしている冬の恒例行事です。保護者や OB、地域の皆さまの温かい支援に支えられながら、地域と共に歩んでいます。

神奈川

第75回神奈川県更生保護大会において法務大臣感謝状を受彰

西湘地区 平塚連絡協議会　会長　久保田 浩巳

2024年11月19日（火）、神奈川県立県民ホールで開催された「第75回神奈川県更生保護大会」において、平塚第3団・4団・5団・6団で構成される平塚市連絡協議会（スカウト数166人）が、法務大臣感謝状を受彰しました。

これは、平塚保護司会が推進する「社会を明るくする運動」の一環として、スカウトたちが長年にわたり地域で活動してきたことが評価されたものです。毎年夏、J1リーグのハーフタイムにはピッチで横断幕やのぼりを掲げたパレードを実施し、試合前には各ゲートでチラシや記念品を配布。更生保護の大切さを多くの人に伝えてきました。地道な取り組みが実を結んだ、誇らしい受彰です。

感謝状
ボイスカウト平塚市連絡協議会殿
貴団体は法務省主唱による
「社会を明るくする運動」～犯罪や
非行を防止し、立ち直りを支える
地域のチカラ～に進んで協力し
この運動の推進に多大の貢献を
されました
その功績は誠に顕著であります
ここに深く感謝の意を表します
令和六年十一月十九日
法務大臣 鈴木馨祐

法務大臣感謝状

千葉

先輩と、プロと、特別な日。

浦安第2団　カブスカウト隊隊長　田代 裕貴

2025年2月9日（日）、ローバースカウトが「心に冒険を !!」をテーマに、カブスカウト向けのJAXA相模原見学を企画してくれました。見学先のJAXA相模原キャンパスでは、現在研究を行っている内容についての話に加え、ローバースカウト自身の研究やスカウト時代の体験談も交えた分かりやすい説明がありました。先輩から後輩へとつながる学びの時間は、聞く側だけでなく話す側にとっても貴重な成長の機会となりました。［参加：スカウト19人、指導者16人］

続く3月9日（日）には、「一瞬を切り取れ !」をテーマに、チャレンジ章「写真家」にちなんだ活動を実施。プロ写真家TETSUYA_ARAIさんをお迎えし、撮影のコツやプロ仕様の機材を見せていただきました。レフ板を使った実習では、写真の奥深さや面白さを体感。プロと自分の写真の違いに驚きながら、忘れられない体験となりました。［参加：スカウト14人、指導者17人］

JAXAで研究してるローバースカウトがロケットの説明をしてくれてる写真

レフ版を使って撮影体験

TETSUYA_ARAIさんが撮ってくれた集合写真

神奈川

話して決めよう！「高校生年代」ができることって何だろう？

みなと地区 ハイアドベンチャー委員会　委員長　渡邉 亮太

2024年9月1日（日）、みなと地区フォーラムを神奈川県横浜市泉区にある中田の森で行いました。テーマは「高校生年代×地域社会」。身近な地域でどんな活動をしていきたいかを話し合いました。

高校生年代のベンチャースカウト９人、大学生年代のローバースカウト１人、若手指導者４人のもと、２つのグループに分かれてフォーラムが進みました。「今までどんな活動をしてきたかな。」「自分たち高校生年代ができることは何だろう。」出会って数時間の子どもたちが活発に意見を言い合えるのも、ボーイスカウトという共通の土壌があるからこそ。「ボーイスカウトであることを生かせないかな」ローバースカウトや指導者は、話を聴いてベンチャースカウトに問いかけたり具体的な活動を想像させたりして、サポートしつつ盛り上げました。雨の降る中始まったフォーラムに、だんだんと熱が加わります。話した内容を文章にまとめ、地区コミッショナーをはじめ指導者７人へ発表しました。一人では考えつかない視点で内容を考え、次の活動へ意欲を高める時間となりました。

神奈川

２つの県大会

神奈川連盟　執行理事　原 清一郎

神奈川連盟は創立75周年を迎えました。笑顔があふれるスカウト活動を展開しよう！というテーマを掲げてカブ部門向けに『パインウッドダービー大会』、ボーイ部門向けに『神奈川一番チャレンジ』といった２つのプログラムを展開しました。

他県連盟ではお馴染みのパインウッドダービーですが神奈川では初めての県大会開催となりました。2025年2月1日（土）末日聖徒イエス・キリスト教会藤沢ワードにて約190車両のエントリーをいただき開催されました。参加した子どもたちからは「初めての参戦＆走行でワクワク・ドキドキでした！」「多彩な車やたくさんの仲間たちがいることを知り来年が楽しみ」などの感想をもらいました。

一方のボーイスカウト向けの神奈川一番チャレンジでは、県内の３地区24班の子どもたちが参加し、班ごとに「班旗立て」のタイムを競い合いました。

一番になった相模原第10団スワロー班は１分38秒と素晴らしいタイムを記録しました。

神奈川

合同月の輪隊舎営

横浜第99団　ローバースカウト隊隊長　菅原 信浩

横浜第88団、99団、123団では子ども達がボーイ隊に上進すると合同の隊活動をしています。そこで上進前の訓練として、各団の上進前の子ども達は1月に合同の隊を結成して訓練をします。今年は2025年3月29日（土）、30日（日）にスカウト会館での一泊訓練を実施しました。

先輩たちの指導のもと、上進に向けての基本訓練、テント設営、災害炊飯などを協力して行いました。子ども達はカブスカウト隊では別々の隊での活動をしてきましたが、この合同訓練で仲間として結束を強めることができ、4月からの活動に向けた良い機会となりました。

参加者／カブスカウト（月の輪スカウト＝ボーイスカウト隊への上進前のスカウト）5人、ボーイ年代の先輩スカウト2人

神奈川

日米ジョイントキャンプで異文化体験

神奈川連盟　スカウト活動支援委員会　安井 馨

2024年10月4日（金）～6日（日）、米軍多摩レクリエーションセンターでBSA Patrol-O-Ree 2024が開催されました。ボーイスカウト／ベンチャースカウトを対象とした在日BSA（ボーイスカウト・アメリカ連盟）主催のこのイベントには、日米の子どもたちと指導者200人以上が集まりました。

開会式は雨でしたが、国旗掲揚後、参加者は元気にプログラムを楽しみました。アーチェリーやシューティングなど、米国の特色あるプログラムや、合同チームでのゲーム、米国スタイルの食事、夜はスタンツ大会などを通じて、言語の壁を超えた友情が育まれました。

参加した子どもたちからは、「最初は緊張したけど、すぐに仲良くなれた」や「英語をもっと話せるようになりたい」との声があり、国際交流の貴重な体験となりました。

最終日の閉会式では別れを惜しみつつ再会を約束し、子どもたちにとって忘れがたい3日間の異文化体験となりました。また、イベントの成功には、大会スタッフとして日本のローバースカウトの大きな貢献がありました。

愛知

室伏広治スポーツ庁長官にお会いして！

名古屋第125団（中京大ローバース）　団委員長　瀧 克己

スポーツ庁長官の室伏広治氏が「中京大学スポーツ科学研究科50周年記念」の記念講演で中京大学豊田キャンパスに来られました。室伏長官は中京大学の教員として在籍されていた時に「名古屋第125団（中京大ローバース）」の育成会長に就任されました。

講演の後、我々にお話をしていただきました。蒲郡第1団の小田耕平さんは、「中京大学に在職中、瀧団委員長とよく遊んだムチの技も披露してくれました。室伏長官のムチの破裂音は、さすがに金メダリストの音でした。ツーショット写真も撮らせてもらい、励まされました。」と大満足な集会でした。豊明第1団の神里絆那さんは、「スポーツや研究者、競技者の心構えのお話も聞け、室伏先生のお人柄の良さも分かりました。」とのことです。全参加者が大満足の集会となりました。

なお、室伏広治氏は大学4年の時、「キャンプ実習」を履修した経験が有り「野外活動の楽しさと大切さを学びました」と、言っておられました。

愛知

三河尾張野営三河湾大会を愛知県蒲郡市・西尾市で開催

三河葵地区 地区コミッショナー　下村 秀樹

2024年8月10日（土）～15日（木）の会期で、愛知県蒲郡市知柄漁港と西尾市幡豆グランドにて、愛知県尾張、三河地域の子どもたちなど約520人が集い、野営大会を実施いたしました。

当大会は、愛知県、蒲郡市、西尾市の全面協力をいただき、普段は利用することができない県有地で開催しました。そのほか、名古屋鉄道株式会社の協力のもと、開催期間中、名鉄蒲郡線内で「大会記念の系統板をつけた特別列車」が期間中走行したり、大会のネームタグをつけている子どもたちは、終日切符なしで鉄道に乗ることができました。また、地元の温泉組合などの協力の下、温泉に入泉したり、漁業関係者の協力をいただき、飲食用氷の直接販売や貝の採取などもありました。

開会式には、鈴木蒲郡市長や中村西尾市長、国会議員、県会議員、市会議員や区長にご参加をいただき、盛大に行いました。

各隊の班会議や班長会議でゼロから決めた、海のプログラムや水鉄砲作り、観光地や歴史探訪ハイキングなどを行いました。

当大会ホームページ　https://mika-owa-camporee.com/

愛知

閉会式後ベンチャースカウト、ローバースカウト全員で

愛知連盟 ハイアドベンチャープログラム2025

A-HAP2025実行委員長　鈴木 勝

2025年3月20日（木･祝）～23日（日）、「森の行者 コノハズク ～更なる高みを目指して～」をテーマに愛知連盟ハイアドベンチャープログラム2025を実施しました。

自然豊かな奥三河地域の山岳行程50㎞をベンチャースカウト12人、ローバースカウト15人、 運営本部スタッフ39人で2泊3日のトレイルをして設楽町から新城・吉川野営場を目指しました。

東海自然歩道の難所と知られる岩古谷山では残雪もあり、南アルプスを眺めながら鞍掛山を縦走、棚田百選である四谷千枚田で初日のビバーク（野宿）を実施しました。

翌朝は棚田の特異な光景を味わう暇もなく、仏坂峠を抜け宇連山の尾根を歩き長い下りを抜けると、2日目宿営地県民の森に到着。氷点下のテント泊も温かい食事、満点の星空が心と身体を癒してくれました。

最終日は長篠の戦いで知られる長篠城駅までJRに乗車し常寒山・船着山を縦走しました。吉川峠では開花した桜が到着を迎えてくれ、自然の美しさと厳しさ、仲間との友情と成長したスカウトの笑顔が印象的でした。

愛知

海外

友情の架け橋は永遠に ――愛知連盟＆ソウル北部連盟 友好提携30周年記念事業を開催

日本ボーイスカウト愛知連盟

愛知連盟と韓国・ソウル北部連盟との友好提携は1994年3月の調印式から始まり、昨年には30周年を迎えることができました。この間、互いの年次公式行事に参加するだけでなく、野営大会へのスカウトの派遣や、高校生年代を対象にした「日韓（韓日）移動ベンチャー大会」の開催など、子どもから大人までさまざまな年代での交流を続けてきました。特に、大学生年代のスカウト･若手指導者を対象にした「ローバース緑化プロジェクト派遣」では、毎年多くの若者が海を渡って植樹活動や文化交流に取り組むことを通じて、両連盟を支える次世代の人材育成にも寄与してきました。第16回となる今回も15人が参加し、交流の輪がさらに広がりました。

昨年は友好提携30周年を記念した記念ワッペンの制作など各種の記念事業に取り組み、11月には大村秀章愛知県知事（県連盟名誉連盟長）らの出席のもと、両連盟の代表者が一堂に会した記念式典・祝賀会を開催しました。愛知が誇る、「世代を越えた友情の絆」です。

記念式典を終えて／若者から連盟役員までみな笑顔で

2007年の第1回緑化プロジェクト派遣

2024年の派遣時／回を重ね友情の輪は幾重にも

兵庫

第19回 HRS 交流会 ～僕らの無人島生活～

兵庫ローバース運営委員会　嶌田 真音

兵庫ローバースでは2024年10月12日（土）～14日（月･祝）にかけて姫路市の無人島「太島」で無人島キャンプを実施しました。兵庫県下のローバースカウトおよび同年代指導者22人が集まりました。水も電気もない無人島という特別な環境下で各々が今までに培ってきたスカウトスキルを実践し、交流を通して同年代の仲間を得、自身の団や地区で活かせるようなアイデアを持ち帰ることを目的に活動を展開しました。初日は、島探検や、通信ゲーム、天体観測を行いました。2日目はサバイバル料理対決や無人島に街灯を灯す工作、大営火を行いました。最終日は漂流物で筏を作ったり、ゲームをしたり、島一周探検をしたり、自由に楽しみました。無人島という非日常の環境で、ローバースカウト年代らしい高度な野外活動に取り組み、スカウトスキルを十分に発揮することができました。また、団や地区を越えた仲間を得ることもできました。さらに、そこで得た活動のアイデアを自身の地区や団に持ち帰り、生かせるプログラムを行うことができました。

大阪

つくろう！ ぼくらのひみつきち

高槻第4団　ビーバースカウト隊隊長　小馬 加奈子

2025年3月2日（日）、大阪府高槻市の公民館でビーバースカウト8人、見学者3人、指導者5人が集まり、ビーバーの大きな基地を作り上げる活動を行いました。集会所に入った時から準備されている大量の段ボールや、資材の柱に大盛り上がり！壁や屋根作りから始まり、天窓やカーテンをつけたり、本当に寝転べるベッドや掛けられるクローゼット、表札などの小物も手作りし、最後には全員で暮らせるくらい立派な基地が完成！「リーダー、こっちも見て見て！」「こういうふうに使うねん！」と自分たちで作り上げた空間に、子どもたちは大喜び！指導者がお客さんとして招かれ、めいっぱいのおもてなしを受けました。

限られた材料で工夫して作ろうと夢中になる姿や、完成後に小物を使ってごっこ遊びを楽しむ様子など、一人ひとりが熱中した姿が見られ、笑顔があふれる活動になりました。

大阪

やりたいをやんなくちゃ！ わたしたちの夏祭り出店繁盛記

豊中第17団　ボーイスカウト隊副長　篠坂 賢治

2024年8月17日（土）、地元の寺社（豊中不動尊）の夏祭りにボーイスカウト13人と大人5人による屋台を出店しました。

事の発端は2023年の冬、次年度の年間プログラムをスカウトたちと企画中に「出店（でみせ）を体験してみたい」という意見がありました。当初は団内の集会で模擬的に実施することを想定していましたが、話を耳にした保護者から地元で開催される夏祭りの情報をいただき、自治会に相談したところ話が進み、ホンモノのお祭で出店を出すことになりました。思わぬ展開に子どもたちの班集会も本気モードに。各班の出店内容は「割り箸でミニチュア立ちかまどづくり（実物の制作実演も）」「キムスゲーム」「ロープ輪投げ」と、日ごろのスカウトスキルを無料で体験するものになり、看板製作や買い出しなども班員で分担して行いました。

お祭り当日は「遊べる出店」として子どもたちの大行列ができるほど大盛況。自治会からも「これからもぜひ!」とオファーを受け、地域と新しいつながりができました。

今回の体験を活かし、次はどんな工夫をしてくれるか楽しみです。

和歌山

小旅行2025 子どもたちの『住吉詣』（すみよしもうで）

橋本第2団　カブスカウト隊隊長　丹生 克生

「隊長～、今年の小旅行はどこ？」子どもたちが毎年楽しみにしている隊集会「小旅行」です。

この旅行は、目的地のどこかにあるゴールを目指し、交通手段や予算、所持品や行程などを自分達で立案し、計画書に纏めるところから始めます。道中では仲間と課された難問を解きつつ、互いの励まし合いの中ゴールを目指しますが、ここに「カブスカウト隊のやくそくとさだめ」の実践や、「自分達で計画・実行することの面白さ」を折込むという、楽しいながらも実は訓練でもある活動としています。

2025年3月23日（日）、今年は行先を大阪市住吉区にあります「住吉大社」とし、カブスカウトたち11人は出発駅から校区外の大海原に漕ぎ出していきました。

指導者4人が同伴しますが口出しは厳禁。逆走あり、落とし物あり、見逃しあり、五里霧中あり…。途中経過を見守る大人全員が「親目線」をもって子どもたちと一緒にワクワクドキドキする旅行となりました。

無事にゴールし、怪我無く帰ってきた子どもたちは、自信と成長した表情に溢れていました。

大阪

モンベル・フレンドフェア大阪に出展 会場に響く鳥の声

名古屋第87団　ローバースカウト隊隊長　池田 章浩

2025年3月15（土）・16日（日）にインテックス大阪で開催された「モンベルクラブ・フレンドフェア」に、ボーイスカウト日本連盟がブース出展しました。体験ブースでは、木材とネジで鳥の鳴き声を再現できる「バードコール」づくりを実施し、2日間で延べ310人の子どもたちが参加しました。

大阪連盟のローバースカウトたちが優しく声をかけながらサポートし、保護者の方々に見守られながら、子どもたちは夢中で制作に取り組みました。

ローバースカウトの働きかけにより、親子や兄弟で協力しながら作る姿も多く見られました。中でも、ネジがうまく差し込めず苦戦する弟に「ここ持ってて！ぼくがやるから」と手を添えるお兄ちゃんの姿が印象的でした。

完成後はシールや絵で世界に一つの作品を仕上げ、会場には子どもたちのバードコールの音が響きわたりました。小さなきっかけから、自然や人とのつながりを感じられる、心あたたまる2日間となりました。

鳥取

石川の仲間に届け！

倉吉第3団　団委員長　福田 京子

第14回、第17回と2回の「日本スカウトジャンボリー」でお世話になった珠洲市をはじめ、能登半島は2024年1月に震災、9月には豪雨と1年に2回もの大災害に見舞われました。倉吉第3団ではジャンボリーでお世話になった感謝の気持ちを石川県連盟のスカウト仲間に届けようと、2024年3月、2025年2月の2回、災害支援募金活動をしました。2025年2月24日（月・祝）の活動では「ボーイスカウト創始者の生誕を祝うB-P祭」の集会の中でガールスカウトと共に行いました。ベンチャースカウトが作成した活動計画を基にスカウトに説明した後、複合施設「鳥取県立エースパック未来中心」館内でビーバースカウト隊～ベンチャースカウト隊、ガールスカウト、指導者、保護者の40人余が来館者に募金の協力をお願いしました。

子どもたちの「能登半島災害支援募金にご協力ください～い」の元気な呼び掛けに県内外からの来館者から温かなご協力をいただきました。石川県内のスカウト仲間が元気に活動できることを祈っています。

神奈川

三浦から山口へ！ ボーイ隊 40th Anniversary Camp

三浦第５団　ボーイスカウト隊隊長　石渡 義樹

コロナ渦では発団40周年行事も日本スカウトジャンボリーも断念しました。そこで次回ジャンボリー参加予定メンバーのボーイ４人、カブ２人、指導者３人、おまけビーバー１人の 計10人で2024年７月30日（火）～８月４日（日）５泊６日で第23回世界スカウトジャンボリーの会場だった、山口県きらら浜へ！

往路は飛行機、復路は北九州発ー横須賀着フェリーでの初体験旅でした。初日は現地のサマーキャンプへ飛入りし、ロープや火起しをレクチャー。一緒にカレーを作り、すっかり仲良くなって花火等で交流を深めました。初めてボーイスカウトを見たという子どもばかりで、興味津々でした。

２日目からキワ・ラ・ビーチの椰子の下にテント設営し、きらら浜へ！ 当時の様子を隊長が聞かせてくれました。他にも秋芳洞、角島など山口を満喫、足を伸ばし広島の平和記念資料館では平和の尊さを全員噛みしめました。先々で10年前にもなるジャンボリーを覚えてる方が多く、たくさん温かい声を掛けていただき、とても驚きました。

最後は湯田温泉で、街中にたくさん有る狐のオブジェを探す、班対抗の狐狩りポイントラリーで盛り上がった夏キャンプでした。

世界ジャンボリーの石碑と

キワ・ラ・ビーチで生きた化石カブトガニ発見

サマーキャンプでの交流（お寺にて）

福島

飯坂温泉へ伝説の宝を探しに！

福島第１団　ビーバースカウト隊隊長　伊勢 洋一郎

2024年12月８日（日）、福島市内にある飯坂温泉へ探検ハイキングに出発！ 温泉に古くから伝わる伝説の宝を探しに行くという設定です。電車に乗り約20分、飯坂温泉駅に到着。謎の巻物に書かれたメッセージに耳を傾ける子どもたち。温泉街にある隠された宝の鍵を集めると宝の場所が分かるとのことです。

早速、地図を見ながら、探検ハイキングがスタート！「こっちだよ」「ここを曲がるんだよ」などと声をかけ合います。途中にある公衆浴場では、宝の鍵を探すイベント。看板の裏などに隠された鍵を、見事見つけることができました！ 子どもたちは見事ゴール地点で再集合。鍵と一緒に入っていた謎のメッセージを合わせると、宝箱の在処が浮かび上がります。見事宝箱を見つけ、鍵を使って開けることに成功した子どもたち。何と、宝の正体は、飯坂温泉に湧き出る温泉そのものでした！

宝箱に入っていた飯坂温泉印の手ぬぐいを持ち、足湯に浸かります。たくさん歩いて疲れた足に、宝物の温泉はさぞかし温かかったことでしょうね！

滋賀

初めての海外、初めてのホームステイ

海外

大津第15団　ボーイスカウト隊隊長　森岡 伸哲

大津第15団では、韓国、冬のソナタの舞台となった街、春川（チュンチョン）で活動する湖畔地域隊との相互訪問を、2012年より継続しています。コロナ禍においてもオンラインで交流しました。今年は、2024年8月10日（土）～15日（木）の6日間、ボーイスカウト4人が訪問しました。5泊6日で、前半はキャンプ、後半はホームステイです。参加した子どもたち全員が初めての海外で、さすがに初日は緊張が隠せない様子でしたが、一緒に食事を作って食べ、共に火を囲み、様々な文化体験プログラムを通して、すぐに普段と変わらない、笑顔あふれる交流の輪ができていました。

活動の振り返りも大切にしており、後日の団全体の発表会では、「言葉は通じなくても、心は通じ合えると感じた」「実際に経験してみることは大事だと思った。行かせてもらえたことに感謝」など、自分の言葉で体験を熱く語ってくれました。たくさんの心温かいおもてなしを受けて、次は自分たちができることを準備していかなければと誓っていました。

神奈川

海外

フィリピン・フレンドシップキャンポリー参加報告

横浜地区国際委員会　派遣団長　伊藤 彰記

2024 Joint SAJ-BSA-BSP Friendship Camporeeの派遣は、2023年の夏に群馬県赤城で開催した第6回横浜地区スカウトキャンポリーに参加したボーイスカウトアメリカ連盟（BSA）409隊の招聘によりフィリピン・バギオ市にて2024年12月26日（木）～2025年1月1日（水・祝）に実現しました。12人の子どもたちと8人の指導者の派遣隊でフィリピンに向かい、ウラップ登山、現地スカウトとの交流、バギオ、マニラ市内観光などを行い、フィリピンの歴史、文化、食事、生活様式等を知る刺激ある内容でした。派遣前には、日・比でオンライン交流会や、日本側派遣隊の訓練キャンプ、末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師たちによる英会話教室も行いました。派遣直後の1月には、なんと、今度はBSA409隊が、青森県三沢市でのBSAキャンポリーに参加。すぐさま横浜、渋谷での再会を果たし、日・比のスカウトの友情を深めた忘れられない2024/25の年末年始となりました！ スカウトによる国際交流は最高です。

東京

海外も国内も！ 繋がる喜び JOTA-JOTI

オンライン

北第11団　ボーイスカウト隊副長　岡崎 万里絵

2024年10月、私たち北第11団は初めてJOTA-JOTI（オンラインを利用したジャンボリー）に参加しました。英語スキルのある隊長と副長の2人が揃ったことで英会話対応ができる体制が整い、実現に至りました。事前に、Instagramを通じて仲良くなった国内団と、繋がる時間の約束をし、当日はいつもの活動拠点にスカウト6人、リーダー2人でWOSMのタープとプロジェクターを準備。スカイプを繋いで待機していると……　突然イギリスの団からコールがありスカウトたちは大慌て！ それでも果敢に英語で会話を試みるスカウトたちにリーダーは胸アツ……！　その後は約束していた国内団と、写真を貼ったスケッチブックを活用して自団の特徴的な活動の紹介をしたり、キャンプの頻度など普段の活動の情報交換をするなど盛り上がりました。最後に、遠方へ転校してしまったスカウトと久しぶりに繋がって近況報告をすることもでき、スカウトという共通項で友情を深める良い機会となりました。

JOTI & 技能章
レポート

茨城

オンライン集会の様子 水戸第5団

東松山ローバースカウト

参加スカウトたちの
おにぎり写真と集会
の報告動画

オンライン集会の様子
名古屋第101団

おにぎりだいさくせん —おにぎりで世界とつながる—

オンライン

水戸第5団　ビーバースカウト隊隊長　満仲 聡之

2024年10月14日（月･祝）11:00～13:00
ONLINE（Zoom）　ビーバースカウト･カブスカウト･指導者合わせて約100人が参加
［プログラム内容］日本各地のご当地おにぎりBINGO／世界の食料支援（オイシックス･ラ･大地様参加）／各地の団紹介／NPO法人TABLE FOR TWO JAPAN主催のおにぎりアクションへの参加（世界の食料支援）

おにぎりをテーマに日本各地のスカウトが集まっていろいろなプログラムに取り組みました。
さいたま第1団、ひたちなか第1団、桜川第1団、水戸第1団、水戸第2団、水戸第5団、水戸第8団、藤沢第16団、名古屋第101団、吹田第6団、長崎第9団から仲間が集結。また、東松山第1団ローバー隊が進行支援で参加！

だいさくせん後に各地で取り組んだ「おにぎりアクション」では、飢餓地域への2,050食分の給食支援に関わることができました。QRコードからは、参加スカウトたちのおにぎり写真と集会の報告動画がご覧いただけます。

また2025年も10月13日（月･祝）11:00～13:00 ONLINEで開催予定です。ご参加お待ちしています。

大阪連盟・大阪第65団、第70団

兵庫連盟・小野第1団

大阪連盟・きたおおさか地区

沖縄県連盟・沖縄第1団

千葉県連盟・流山第3団

静岡県連盟・三島第5団

大阪連盟・茨木第9団

集え世界中のスカウト！ 毎年開催されるオンラインジャンボリー

JOTA-JOTI

Jamboree on the Air
Jamboree on the Internet

JOTA-JOTI とは？

Jamboree on the Air–（JOTA）、Jamboree on theInternet–（JOTI）は、世界スカウト機構（WOSM）が主催する公式国際行事です。「お互いを理解し、知識と友情を深め、世界や自分が暮らす社会への興味関心を育むこと」を目的とし、アマチュア無線やインターネットを通じてオンラインで仲間たちと交信をする、1957年から続く世界最大級のスカウトイベントです。

スカウトたちは、無線技術、IT 技術、そしてコミュニケーション能力を駆使して世界中の仲間たちとの交流をゲーム感覚で楽しみます。

JOTA は、アマチュア無線を使って「どうやって相手とつながるか」を重視します。ビーバー年代からでもチャレンジできる国家資格を持って、国内・世界の仲間が出している電波を捕まえます。スマートフォンでは味わえない「誰と繋がれるか分からない、もし繋がったら効率よく情報を伝えなければならない」という中で技能と工夫が試されます。スカウトたちの熱意と無線機捌きは、指導者以上で驚かされます。もちろん免許がなくても、電波や通信をテーマにしたゲームで楽しむことができます。

JOTI は、インターネットを使って「何をどうやって伝えるか」を重視します。ビーバー年代は、言葉の壁を超えて身振り手振りやゲームで英語圏以外でもすぐにお友だちをつくります。カブ年代は、特技の発表や習ったばかりの英語にチャレンジして輪を広げます。ボーイ年代以上は、普段の活動や悩みを共有する中で、世界の共通性や生活様式の相違点、そして各国の社会課題に触れます。

個人でも、団でも、さらに大きな集団でも、好きな方法で気楽に参加できる。工夫次第でいくらでも楽しくなる。それが JOTA-JOTI なのです。

2024年度のハイライト

2024年度は、WOSM からのアクティビティが一層増えて、「Scouts for a Greener World」というテーマに基づいた野外活動に連動するポイントラリーや Minecraft 上でのミニゲームなど従来の「チャット」や「ビデオ通話」だけではないさまざまなプログラムが展開されました。また、JOTA-JOTI TV のコンテンツも豊富になり学びの幅も広がったと感じています。参加登録者数は、なんと全世界から73万人以上を記録しました。

最後に

毎年10月第3週目の週末は、JOTA-JOTI！ アマチュア無線をされる方は、お空に耳を澄ませてみてください。きっとスカウトたちの元気な声が聞けるでしょう。世界に友を作り、平和を祈り、いつかリアルで出会う夢を持つ。皆さんもぜひ、私たちと一緒に楽しい世界に飛び込みましょう。

ボーイスカウト日本連盟
JOTA-JOTI特設ページ

https://www.scout.or.jp/member/event/jota-joti

WOSM
JOTA-JOTI特設ページ

https://www.jotajoti.info

日本国内事業協力団体
一般社団法人日本アマチュア無線連盟／一般財団法人日本アマチュア無線振興協会／アイコム株式会社／ CQ 出版株式会社／日本ボーイスカウトアマチュア無線クラブ

■ **開催日時**

事前集会
2024年10月19日（土）
18:30 ～ 21:00
［オンライン］

フォーラム
2024年11月2日（土）
～ 4日（月･祝）

■ **会 場**
兵庫県立嬉野台生涯教育センター

■ **テーマ**
高校生年代 × 地域社会
～私たちだからできること～

■ **参加者**
県連盟代表 43県連盟
ベンチャースカウト72人

■ **スタッフ**
全国スカウトフォーラム運営委員 15人
日本連盟プログラム委員 5人
兵庫連盟支援委員 8人

■ **協 力**
NPO 法人
こうべユースネット理事長
辻 幸志氏
［事前集会での基調講演］

NPO 法人
シミンズシーズ代表理事
柏木 登起氏
［フォーラム当日のワークショップ］

第25回
全国スカウトフォーラム

1日目　開会式、ワークショップ

実際の地域課題と解決のためのアプローチについて学び、自分の住んでいる地域の困りごとから想定される課題と高校生年代にできることを考えました。

2日目　県フォーラム報告会、分科会

グループごとに県フォーラムの発表を行い、お互いの地域社会の現状を共有しました。
その後、分科会を実施し、課題とその原因に対してどのような取り組みができるか整理しました。また、各グループから議長団を選出し、分科会での議論から提言文の素案を作成しました。

3日目　全体会、閉会式

全体会にて、参加スカウトがフォーラム提言文案について理解を深めたうえで、採択を行いました。採択されたフォーラム提言文は議長団議長より川瀬プログラムコミッショナーへ手渡されました。

フォーラム提言文

きっかけをつくれるVSが先陣を切る!!

身のまわりの人を巻き込み、“地域をよりよくする意識を0から1へ”

人とのつながりを広げながら、地域の現状をより良くする意識を作るために、ベンチャースカウトが率先して活動を起こすことを目的としてフォーラム提言文を採択しました。全国フォーラム後に各地でアフターフォーラムが実施されています。

2024年度［2025年1月実施］ 日韓スカウト交歓計画

日韓スカウト交歓計画は、新型コロナウイルス感染拡大の影響と韓国連盟の第25回世界スカウトジャンボリー準備を考慮して、2020年1月に実施した後に中止していましたが、2023年度（2024年1月）に事業を再開し、今回は再開後2回目、通算22回目の事業開催となりました。

今回は1月11日（土）から19日（日）までの9日間、韓国からスカウト24人、指導者4人、計28人を招聘し、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて日韓スカウトフォーラム、続いて韓国スカウトの「見学プログラム」を実施しました。

■ 日韓スカウトフォーラム

1月11日（土）、韓国派遣団が羽田空港に到着し、9日間の交歓計画がスタートしました。32県連盟から日本のスカウト47人が東京・代々木にある国立オリンピック記念青少年総合センターで韓国参加者28人を歓迎し、3日間の日韓スカウトフォーラムを実施しました。

1日目は開会式と仲間作りゲーム（アイスブレークプログラム）、2日目は日韓スカウトの混成グループによるSDGs等に関する話し合い、夕食後の文化交流会では、日韓スカウトがダンスや歌を披露しました。最終日は各混成グループによる話し合いの内容を発表し、この3日間で互いに学んだことを共有しました。その後のフォーラム閉会式では、今回のフォーラムも両国の友情を深めることで国際平和に努めるスカウトとしてとても良い機会となりました。

■ 韓国スカウト各地見学

日韓スカウトフォーラム後、韓国スカウトは「東京スカイツリー」「浅草」「山梨県立リニア見学センター」「山梨県立富士山世界遺産センター」「芦ノ湖」「熱海」「金継ぎ体験」「オリンピックミュージアム」「チームラボプラネッツ豊洲」などを訪れ、日本の自然・歴史・科学・文化などについて学びました。また、都内にある本郷中学校・高等学校および同学園の幼稚園を訪問し日本の教育について学びました。

1月18日（土）には、日韓スカウトフォーラムに参加したスカウトとスタッフの案内により6つのグループに分かれて都内探訪プログラムを実施しました。

期 間
1月11日（土）～19日（日）
9日間

場 所
東京・富士・箱根ほか

人 数
韓国連盟参加者（スカウト24人、指導者4人）計28人
日本連盟参加者（日韓スカウトフォーラム参加）32県連盟47人
奉仕スタッフ14人
実行委員5人

日 程
1月11日（土）～13日（月・祝）
日韓スカウトフォーラム
1月14日（火）～18日（土）
韓国派遣団見学プログラム
1月19日（日）
韓国派遣団帰国

今こそ求められる「自助」「共助」「災害ボランティア」のチカラ

■ 実施概要

実施日／2025年2月22日（土）～24日（月・祝）　2泊3日
実施場所／MOA大仁研修センター（静岡県伊豆の国市）
参加者／ローバースカウトおよび同年代の指導者47人（台湾連盟より2人参加）

■ プログラム概要

（一部内容を省略して記載しています）

1日目

- 総コミッショナーからの話
  ～スカウティングと災害対応～
- 災害と都市インフラに関する基調講演
- 災害時における不測の事態の対応を学ぶ「リアル防災訓練」
- 調理器具を使わない炊飯、調理
- 静岡県が開発した図上訓練の避難所運営ゲーム（HUG）

2日目

- 災害時の心理的影響とそのケアについての学習
- 会場周辺の静岡県連盟の関係者による避難者役の協力を得た、避難所運営体験の実施
- 台湾指導者による基調講演
  ～ Disaster Management in Taiwan now and future ～

3日目

- お借りした施設の清掃、整備
- 「防災」をテーマとした他部門への指導に関するプロジェクトの企画立案

■ 参加者インタビュー

井上朝晶さん（奈良県連盟・奈良第18団）

Q：Workshopは期待に即していましたか？

もともと「共助」について学びたいと考えていましたが、実際に体験を通して学んだことで、「共助」だけでなく「自助」との相互作用によって、より良い避難生活が実現できることを実感しました。

宮本佳奈さん（大阪連盟・堺第25団）

Q：次回のWorkshopへの参加を検討されている方へのメッセージをお願いします

今回のワークショップに参加したことで、「自助」や「共助」について改めて考える良い機会となりました。災害に関する知識を深めると同時に、スカウトとして培ってきた精神や技能が、実際の災害現場でも大いに役立つことを再認識することができました。この学びを、自団の仲間や、次回のワークショップに参加される方々にもぜひ知っていただきたいです。

土砂撤去作業の様子／活動を終えた後の報告・反省会の様子（この最終日のプログラムでは、報告・反省だけではなく、今後発生するであろう災害においてローバースカウトとして“何を備え”“何をすべきか”まで話し合い、コミットメントしていました）

令和６年能登半島地震

– 被災地支援活動に参加して –

ボーイスカウト日本連盟
災害対応タスクチーム
牧島 宏之

３月20日（木･祝）から23日（日）にかけて、ボーイスカウト日本連盟はローバースカウトを募集対象とした被災地支援活動を実施しました。北は北海道、南は沖縄まで全国各地から45人のローバースカウト、ベンチャースカウト、指導者が集まり、能登半島の被災地で支援活動に従事しました。

今回の活動の中心となったのは、珠洲市大谷地区での土砂撤去作業でした。地震の影響で斜面が崩れ、住宅が土砂に埋もれたままとなっている現場で、参加者たちはスコップや一輪車を使いながら、２日間にわたり作業を続けました。また、別の現場では瓦の撤去や家財の搬出作業を行い、家屋の片付けを支援しました。

参加者の多くは、今回が初めての被災地ボランティア活動でした。被災地に立ち、住民の方々の話を聞くことで、報道では伝わりきらない被害の実態を知り、支援の必要性を肌で感じる機会となりました。特に、地震の影響だけでなく、その後の豪雨による被害の大きさも目の当たりにし、自然災害がもたらす爪痕の深さに言葉を失う場面もありました。

本活動の企画当初は、ローバースカウトの参加者が集まるのかという不安がありました。しかし、全国各地から支援の意志を持ったスカウトが集まり、力を合わせて活動に取り組む姿に、スカウト精神の真価を改めて感じました。また、現地での活動は、災害支援系 NPO レスキューアシストの協力を得て実施され、専門的な知識と経験に基づいた指導のもと、安全かつ効果的に作業を進めることができました。この場を借りて、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

支援活動を終えて、私たちが感じたのは「まだまだ復興への道のりは遠い」という現実です。一度の支援活動で解決できる問題ではなく、長期的な支援が必要であることを痛感しました。スカウトとして、そして一人の市民として、これからも被災地の力になれることは何かを考え、継続的に支援を続けていきたいと思います。

最後になりますが、本事業に参加し、被災地のために尽力したすべてのスカウト関係者に深く感謝申し上げます。私たちの小さな力が、被災地の復興に向けた一歩となることを願い、これからもボーイスカウトとしてできることを考え、行動していきたいと思います。

2024（令和6）年度 ［第43回］

富士スカウト代表表敬

2024年度の富士スカウト代表表敬を、次の日程でそれぞれ実施しました。
代表スカウトは訪問前に都内へ集合し、準備集会を経て表敬訪問に臨みました。

赤坂東邸

富士スカウト代表が赤坂東邸へ表敬訪問し、秋篠宮皇嗣殿下からご接見を賜りました。ご懇談では、秋篠宮皇嗣殿下がスカウト一人ひとりとお話しになられ、代表スカウトがお礼と決意の言葉を述べ、弥栄を贈りました。また、殿下よりお言葉をいただきました。

秋篠宮家提供

日時／3月26日（水）
10:00 ～ 11:30
場所／赤坂東邸
参加者／代表スカウト26県連盟47人
水野正人 理事長、出田行徳 専務理事、和田剛和 常務理事、川瀬政美 プログラムコミッショナー他

首相官邸

富士スカウト代表が首相官邸を表敬訪問し、石破茂内閣総理大臣から励ましの言葉と、あべ俊子文部科学大臣から激励の言葉をいただきました。代表スカウトによる決意の言葉を述べ、両大臣へ弥栄を贈りました。

日時／3月27日（木）18:15 ～ 18:30　場所／首相官邸　参加者／代表スカウト15県連盟47人
［ボーイスカウト振興国会議員連盟より］逢沢一郎 会長、松本剛明 副会長、笠浩史 理事・事務局長
［ボーイスカウト日本連盟より］村田禎章 総コミッショナー、出田行徳 専務理事、和田剛和 常務理事、川瀬政美 プログラムコミッショナー他

2024年度

スカウトの日

実施日　2024年9月16日（月・祝）
協　賛　一般財団法人セブン - イレブン記念財団
テーマ　プラごみバスターズ大作戦　～ Love & Save the Ocean ～

長崎県連盟・長崎第13団

47都道府県連盟およびシンガポール第1団合わせて、719団からスカウト19,785人、指導者10,617人、合計30,402人の申し込みがあり、全国でスカウトが環境活動に取り組みました。活動報告では、昨年の1.5倍の46都道府県連盟583団からスカウト10,183人、指導者5,677人、合計15,860人からの活動報告が集まりました。

その後、一般の小学生、中学生にも環境教育への興味を持ってもらうために、日本最大級の環境展示会「エコプロ2024」に出展（2024年12月4日（水）～ 6日（金）、東京ビックサイトにて開催）しました。東京近辺在住のローバースカウトの協力により、日本連盟のブースでは「リサイクルおもちゃの体験プログラム」を実施し、ブースへの来場者数は3日間で400人を超えました。

また、日本連盟創立100周年記念事業の一環として2022年度に実施した「プラごみバスターズ大作戦」の取り組みのひとつ「牡蠣パイプ由来のペレットで買い物かご」が、「2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）」会場内に出店するセブン - イレブン店舗にて利用され、当時の取り組み状況とともに、セブン - イレブン記念財団とボーイスカウト日本連盟による共同事業として紹介されています。

第19回日本スカウトジャンボリー

19th NIPPON SCOUT JAMBOREE

大会テーマ決定！

挑戦 ～神石から未来への一歩

■ テーマについて

スカウト一人ひとりが、ジャンボリーを通じて未来に向かって力強く歩みを進めるような、新たな挑戦をしてほしい、という願いが込められています。全国・海外のスカウトが、神石高原町の豊かな自然と地域の人々に囲まれて、自分だけの“挑戦”に出会う夏がやってきます。

■ 大会ワッペンデザイン

ジャンボリーのシンボルとなる大会ワッペンのデザインを公募したところ、全国の40人からの52作品の応募がありました。たくさんのご応募、ありがとうございまいした。

運営委員会による審査の結果、右の作品を入選に選考した他、6作品が佳作となりました。

応募作品の説明／大会テーマ「挑戦 Challenge」の旗を掲げ、未来へ踏み出すスカウトの姿を表現しています。中央の「19」は未来への“一”歩と開催地・神石高原のマップピン“9”を示しています。雲海に包まれた天空のキャンプ場でのスカウトの躍動感をワッペン全体で表しています。

沖縄連盟石垣第1団　育成会長　浦添 尚文さん

■ その他情報

大会 Web サイトを公開しました。今後もプログラムや地域の魅力など、スカウトや保護者、関係者向けの情報を随時発信予定です。最新情報は下記アドレス（または QR コード）からご覧ください。

https://www.scout.or.jp/member/19nsj

■ テーマソング

募集が終了しました。2025年夏～秋頃に公式 Web サイト等で発表・公開予定です。

大会概要

会　期：2026年8月4日（火）～10日（月）6泊7日
会　場：広島県神石高原
参加者：約8,000人（国内派遣隊 約6,000人、外国派遣隊 約400人、運営スタッフ 約1,600人）

社会で活躍する若手スカウトにインタビュー

スカウト活動を通して成長した若手スカウトが社会でどのように活躍しているかインタビューしました！

プロフィール

寺道 紘毅［31歳］

広島県連盟広島第27団 ボーイスカウト隊副長

職業／産業医
会社／株式会社 IHI 他

大学生時代にどのようなスカウト活動をおこなっていましたか？

私が大学生時代に最も力を注いだ活動は、全国ローバースカウト会議（通称 RCJ）の運営です。RCJ は大学生年代の全国組織であり、その運営を担う私たちの使命は RCJ を通して全国の仲間の活動を活性化させることでした。

しかし、運営は困難を極め、なかなか成果が出ませんでした。このままでは仲間たちの情熱が消えてしまうと危機を感じた私たちは、試行錯誤を重ねました。どうしたらみんなが楽しいと感じられるか考え、いろんな活動を続けた結果、全国の仲間の共感の輪が少しずつ広がっていきました。そして、任期最後には 11 年ぶりとなる全国規模のキャンプ大会「RCJ クエスト」を開催することができました。

この経験を通じて、「利他の精神」、つまり組織全体のために自分たちが何をできるかを考える重要性を学びました。現在も後輩たちがこの精神を引き継ぎ、RCJ をさらに盛り上げてくれています。この学びは、現在の私の価値観を形作る基盤となっています。

社会の中でどのようにスカウト活動が生きていますか？

私は今、産業医という会社で働く医者をしています。産業医は従業員が元気に働けるようサポートし、従業員の幸せと会社の成長を両立させる役割を担っています。

仕事をする中で、スカウト活動が生きていると感じる瞬間があります。それは、従業員と一緒に働くことについて考えるときです。例えば、メンタルヘルス不調でお休みされた方の復帰の際には、「どのように働くか」を共に考えます。働くことは人生の大部分を占めるため、これは「どのように生きるか」を考えることでもあります。

スカウト活動では、異なる環境で育った仲間と野外生活を

RCJ クエスト2016 in 高萩
開会式挨拶

任期最後の総会後、運営メンバーと

従業員との産業医面談中

共にすることで、多様な価値観に触れる機会が数多くありました。そのたびに、自分とは違う考え方や生き方に驚き、自己の価値観を振り返るとともに、自然とお互いを理解し協力する力が身につきました。この経験は、従業員の生きる目的を一緒に考える際に、大切な土台となっています。

ドイツの哲学者ニーチェは「なぜ生きるかを知っている者は、どのように生きることにも耐える」と述べています。スカウト活動は自分と他者が「なぜ生きるか」を知り、共に生きる力を育む重要な場だと感じています。

2026年に開催される第19回日本スカウトジャンボリーの広報部長でもある寺道さんに、ジャンボリーの魅力について伺いました！

ずばり、ジャンボリーの魅力について教えてください！

ジャンボリーとは、国内外の仲間といろいろな活動を経験し、一緒に生活する、国内最大規模のキャンプ大会です。そして、ジャンボリーの魅力は、ここでしかできない貴重な体験を通して、みんなが成長できることにあります。

私が初めてジャンボリーに参加したのは高校生のときで、みんなをまとめるリーダーの役割を任されました。当時はまとめ役になることが多かったので、楽勝だと思っていました。しかし、実際には思うようにいかないことばかりでした。雨が続いてテントが浸水したり、料理に失敗したりと、とても難しいキャンプ生活でした。また、仲間同士の衝突や慣れない環境で体調を崩す仲間もいて、大変な状況が続きました。それでも、みんなで悩みながら協力したおかげで、何とか乗り越えることができました。帰りのバスで見た仲間たちの成長した顔は、今でも忘れられません。この経験を通して、どんな困難にも立ち向かう勇気と自信がつきました。

もちろん、楽しい思い出もたくさんあります。ジャンボリーに参加することで、国内外の友達がたくさんできました。大盛り上がりを見せた大集会や、そこでしか経験できない活動は、今でも記憶に残っています。ジャンボリーで得た友情や経験は、私にとって大切な宝物です。

時には荒波に揉まれながらも、仲間と一緒に楽しい日々を過ごし、少し大人になって帰ってくる。ジャンボリーの魅力はそこにあると思います。

ジャンボリーにむけての意気込みやコメントをお願いします！

第19回日本スカウトジャンボリーは、私の地元である広島県で開催されます。会場の神石高原は標高が高く、涼しい気候の中でキャンプ生活ができます。私もここでキャンプをしたことがあり、自然が豊かで、とても楽しい時間を過ごすことができました。

前回大会はコロナ禍の影響で会場が全国に分かれていましたが、今大会は8年ぶりに国内外から約8,000人が一堂に会します。1週間、何もない原っぱに一つの町ができ、中学生～高校生年代の子どもたちが仲間と一緒に生活します。ジャンボリーで過ごす時間は、ここでしか得られない貴重な経験となり、一生忘れられない思い出になります。

今回のジャンボリーが、参加する子どもたちの人生にとってかけがえのないひとつのピースとなるよう、実行委員一同頑張っております。ぜひ、一緒に素晴らしいジャンボリーにしていきましょう！

第15回日本ジャンボリー@静岡県 朝霧高原
仲良くなった海外の仲間

第23回世界スカウトジャンボリー@山口県きらら浜
大集会

第19回日本スカウトジャンボリーのサブキャンプ
予定地

すべての子どもに、未来を照らす冒険を。

#体験格差をなくそう

子どもの時の自然や文化などに関わる体験が、将来の成長にプラスになるといわれています。しかし現代の日本では、家庭的・経済的な理由によって、子どもの体験活動に大きな格差が生じています。ボーイスカウト日本連盟では、この「体験格差」という社会課題に向き合い、「ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラム」※としてすべての子どもたちにスカウト活動を届ける努力をしています。 ※「ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラム」以下「トモスス」と記載

経済的な理由などで体験活動を諦めることの多いひとり親家庭が ボーイスカウトを選んでいます

■ トモススを利用した保護者の声

この一年で、様々な活動に参加させていただきました。
どの体験も家庭ではなかなかできないことが多く、ありがたく思っています。
覚えてきたロープワークを日常生活で役立てる場面を見た時は
「さすが、ボーイスカウト！」と感心し、頼もしく思いました。

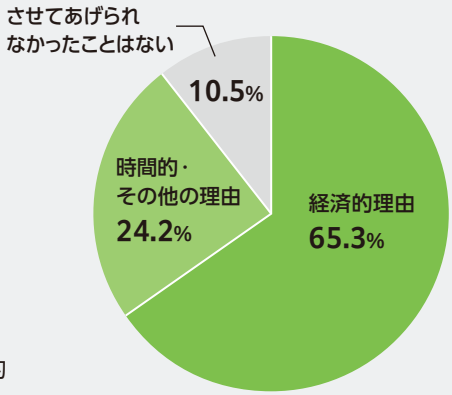
ひとり親であり、金銭的にも、知識的にも、
子に色々な体験、経験をさせてやることは難しいと感じていました。
泣き虫で、何をするにも母にベッタリだった娘が、スカウト活動を
通じて色々な事にチャレンジする姿を見せてくれて、とても嬉しく、頼もしく思います。
震災や貧困のニュースを目にし、話題にするようになった娘に、
活動を通しての成長を感じています。

子どもをボーイスカウトに参加させているひとり親の

89%

が、子どもがやってみたいと思う体験をさせてあげられなかったことがある

※トモスス利用者調べ（スカウト活動は除く）



チャンス・フォー・チルドレン（2023）の調査によれば、子どもの「体験格差」には、経済的状況・家庭的状況・地理的状況などの複合的な要因があります。ボーイスカウトは、すべての子どもたちの体験格差を無くすことを目指しています。

体験格差の背景❶

経済的状況

家庭の収入が、子どもの体験機会を左右する

活動を支えているのは全国3万人のボランティア。地域の大人たちが時間、活動場所、資金を持ち寄ることで、100年以上続いてきました。

体験格差の背景❷

家庭的状況

保護者が子ども時代に経験したことや、家族で出来ることが、体験機会を左右する

学年を超えたグループ活動で、子どもたちは成長します。家庭ではできない体験を届けるために、リーダーも研修を積んでいます。

体験格差の背景❸

地理的状況

住んでいる地域にある習い事・体験活動の選択肢の数が、体験機会を左右する

ボーイスカウトは全国47都道府県、1,600拠点で活動しています。全国どこでも、また世界中で参加できます。

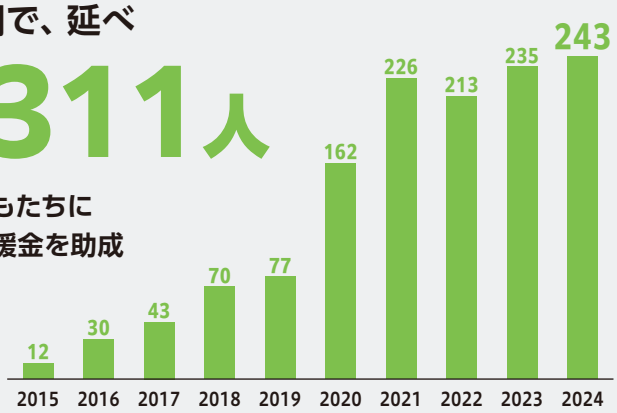
ともに進もう（ひとり親家庭等応援）助成プログラム

スカウト活動の機会をすべての子どもたちに届けるために、ボーイスカウト日本連盟では2015年度からひとり親家庭の子どもたちへの支援を続けてきました。
アンケートなどでひとり親家庭の体験格差の実態を調査し、レポートを公開しています。

10年間で、延べ

1,311人

の子どもたちに活動支援金を助成



インパクトレポート
QR コード

■ トモススによりスカウト活動を体験した子どもの声

僕は来年度中に「1級」を取りたいです。また、来年度は夏に県キャンボリーがあるので、それまでには基本的なことはすべて終わらせたいです！　ゆくゆくは世界ジャンボリーに行きます!!

たきびでましゅまろをやいて食べたり、また夜はさむかったりしたけど、みんなでテントをたたんだりしてたのしかったです。

3回のクラウドファンディングに挑戦

延べ851人から、1,235万円のご寄付に感謝！

2022年から毎年クラウドファンディングに挑戦し、2024年度で3回目となりました。ライブ配信やSNS発信などを重ね、多くの方々に体験格差について知っていただく機会となりました。

■ ご寄付をしてくださった方々からのメッセージ

ボーイスカウト活動の楽しさを多くの子どもたちに体験してもらえるよう頑張ってください！ 分断が進む世界で、いまほどボーイスカウト運動の価値が問われている時代はないと思います。

ひとり親家庭で育ち、ボーイスカウトを続けてきました。様々な困難があることもよく知っています。陰ながら応援しております。

スカウト活動は社会課題の解決に挑戦します！
人と地球の未来のために、あなたもスカウトのパートナーに!!

ボーイスカウト日本連盟では、クラウドファンディング以外にも、月々のクレジットカード決済によるご寄付、PayPay、また書き損じはがきなどによるご寄付、遺贈（遺産によるご寄付）を受け付けています。2024年度は累計で7,845万円（災害募金482万円を除く）のご寄付をいただきました。心から感謝申し上げます。

ご寄付に関するお問い合わせ

メール bokin@scout.or.jp

電話 03-6913-6262

私たちの運動は皆さまに支えられています

多くの企業・団体の皆さまからご支援
今回はご支援いただいている２社の

ビクトリノックスジャパン株式会社
マーケティング & コミュニケーション部
久保 順子 さん

「フィールドマスター」とは

1. ナイフなどのツールを安全に出し入れできる。
2. ナイフなどのツールで木のえだや竹をけずる。
3. ナイフやリーマーなどのツールを使いこなして板や木の実に穴を開ける。
4. ナイフで着火用の木くずを作り、火起こしができる。

上記の項目ができるようになるとバッジを取得できます。

――ボーイスカウトとの取り組みについて

「新チャレンジ章」プログラムの第一号として、マルチツールを使った【フィールドマスター】を共同開発し、2018年から2024年までに約9,500人の子どもたちがバッジを獲得してくれています。

その他にもボーイスカウト日本連盟さんが行う事業に物品提供を通じて協力をさせていただいております。

――取り組みのきっかけや目的

ビクトリノックスは、ボーイスカウトイギリス連盟においてもサバイバルスキルアクティビティとして日本と同じくナイフの責任ある所有と活用について伝え、学ぶ機会創出をサポートしています。

日本支社では、2010年頃から続くナイフに対する正しい知識と安全な使用方法の普及活動や＜日本とスイス「道具、ナイフ教育」の意識・実態調査＞を実施しており、それらの結果をうけて「日本の子どもたちにどうぐ体験をするきっかけやチャンス、日常使いといったことのサポートをしたい」という機運が社内で熟していたことも【フィールドマスター】プログラムの開発を加速させた理由のひとつです。

子どもたちの健全な成長の一助となり、また、大人もナイフの利便性を再発見できるようなプログラムが広く長く続いて欲しいと考えています。

このプログラムでマルチツールを改めてフィールド活動で体験し、緊急時の援助要請、応急処置の体験も含めて学び、自助、共助の力を発揮するパワーのある重要な道具として浸透し続けて欲しいとも強く願っています。

また、イギリスでは、自然素材を用いた火起こしにも取り組みます。これは、人間の自然との共生を学ぶ機会にもなっています。

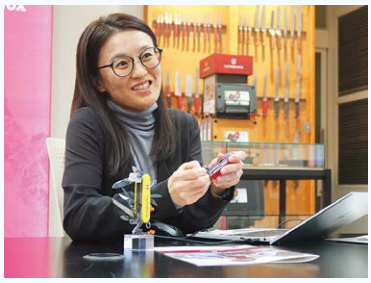
――取り組みの効果や成果

ボーイスカウトさんとのタイアップ活動を「安全教育の一貫」と捉え、重要な企業 CSR として発信し続けています。このプログラムは、ビクトリノックスがマルチツールを通じて体現したい生きる力を養うことへの貢献そのものだと考えており、従業員一人ひとりのマルチツールへの愛情や、社会貢献を意識したより付加価値の高い商品としての認知醸成に役立っています。ボーイスカウトさんとの取り組みで、当社だけでは得られない大きな社会貢献が実現しています。

――ボーイスカウトに寄せる期待

ボーイスカウトの指導者の皆さまから、子どもたちへ正しいナイフの理解や使い方を伝えていただきありがとうございます。

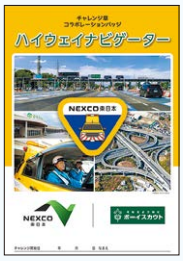
ビクトリノックスは、より楽しい野外活動の時間を過ごして欲しいと願っており、その側にマルチツールがあることも期待しています。日本では、「どうぐ体験応援団プログラム」としてマルチツールのお貸出しも無料で承っています。防災の知識やより一歩進んだスカウト活動にぜひ、ビクトリノックスのマルチツールを備えてほしいと願っています。



いただき、ボーイスカウトの青少年に対して教育機会をご提供いただいております。
企業様にインタビューさせていただきました！

東日本高速道路株式会社（NEXCO 東日本）
総務・経理本部 広報・CSR 部 CSR 推進課
丸山 耕治 さん
相澤 萌佳 さん

「ハイウェイナビゲーター」とは



1. 高速道路と一般道路（国道、県道、市町村道等）との違いを3つ以上調べる。
2. 身近な商品や食べ物が、どのようなルートで運ばれてくるか考え、地図でたどる。
3. 人または、環境にとって、高速道路が与える良いことと悪いことをまとめる。
4. 未来の高速道路で実現してほしいことを家族や仲間と話し合い、そのアイデアを発表する。

上記の項目ができるようになるとバッジを取得できます。

――ボーイスカウトとの取り組みについて

ボーイスカウトさんとの取り組みは、「新チャレンジ章」というプログラムから始まりました。また、昨年の夏に福島県で開催された日本アグーナリーにもプログラム出展をさせていただき、現地で子どもたちと実際に触れ合うことができました。

――取り組みのきっかけや目的

ボーイスカウトさんとの連携が始まったきっかけは、大きく２つあります。
１つには、お子さんがボーイスカウトに参加している弊社の社員から「新チャレンジ章」の取り組みについて提案があったことです。

もう１つには、コロナ禍で出前授業などの機会が減り、次世代育成支援をどう行っていくか悩んでいたタイミングでボーイスカウトさんと巡り合い、アイディアをいただけたことです。

プログラムの内容を一から考え始めていた当時は「交通安全」をテーマにする案もありましたが、高速道路は社会インフラとしての役割が大きいので「持続可能な社会の実現に貢献する高速道路」をテーマにして、子どもたちの自由な発想から「未来の高速道路」について考えられるものにしました。

――取り組みの効果や成果

次世代育成支援という観点では、現場が中心となり、各地の学校で出前授業などを行っていますが、新チャレンジ章として作った「ハイウェイナビゲーター」のプログラムが、私たちの出前授業と大きく異なるのは、各地のボーイスカウト指導者の方がプログラムの内容を考え、工夫して伝えてくださり、また、子どもたちからも自発的な学びが生まれている点にあると思っています。弊社の社員が講師としてお伝えする授業とは異なり、自らが主体になり取り組む学習は、子どもたちの貴重な体験として、強く記憶に残っていくのではないかと思います。

子どもたちの発想は、とても豊かで、また大切であり、「未来の高速道路」として出してくれたアイディアの中には、今まさに検討している技術や機能もあります。弊社が考える未来志向と子どもたちの自由な発想がマッチすることは、とても良い事だと感じます。

また、2024年夏に福島県で開催されたアグーナリーに出展して、子どもたちや指導者の方とお話しができ、「高速道路を使って（ここまで）来ました。ありがとうございます！」などの声をかけていただき、純粋に嬉しかったですし、こちらがボーイスカウトの皆さまを笑顔にするつもりが、逆にこちらが笑顔になってしまいました。

――ボーイスカウトに寄せる期待

高速道路が持つ役割やそれが社会とどのように関わっているのか、そしてそれを支える NEXCO 東日本という会社を子どもたちに知ってもらいたいという気持ちがあります。

また、いろいろな角度から自由な発想ができるのは、子どもの特性だと思うので、とにかく純粋にプログラムを楽しんでもらいたいなと思っています。ボーイスカウトの指導者の皆さんがプログラムの魅力を引き出してくださっていることに感謝するとともにこれからも良いパートナーシップを続けていけることを願っています。

未来を照らす冒険に、あなたの力を。

ボーイスカウトが100年以上続き、世界中で広がっている理由。それは、地域の大人たちの寄付とボランティアのおかげです。当連盟では、子どもたちの活動を応援していただくために、さまざまなご支援の方法を用意しています。

寄付金（1回限り）［随時］

はじめての方も、維持会員の方も、また記念日や周年祝いでのご寄付にもどうぞ。クレジット決済、銀行振込等に対応。ジャンボリーやひとり親家庭支援への使途指定もできます。

維持会員［継続サポーター］

「維持会員」という制度として、個人・法人の方からの継続的なご寄付をお願いしています。1か月1,000円から可能です。現在4,200人の継続サポーターが登録しています。

遺贈［遺言による寄付］

遺言により、ご自身の財産の一部または全部を寄付することができます。公益財団法人への遺贈は相続税免除対象です。

もったいない寄付・キモチと。

書き損じハガキ等を集め、ひとり親家庭支援に活用させていただきます。またブックオフとの提携により、中古本やゲーム等のリサイクルによる寄付も可能です。

ソフトバンクつながる募金　Yahoo! ネット募金

ソフトバンクの通信料お支払いとともに、またクレジット決済やVポイント、PayPay等でのご寄付を受け付けています。少額からお手軽にご支援いただけます。

PR自動販売機［コカ・コーラボトラーズジャパン社］

特別デザインの自動販売機を設置することで、スカウティングをPRでき、さらに売上の一部が寄付金としてスカウト活動の支援に充てられます。

これらの他に、ジャンボリー等の協賛、クラウドファンディング、被災地支援募金、災害ボランティア活動支援金としてのご寄付もございます。
子どもたちの挑戦を支える誇りある仲間に ―― あなたも。

税制上の優遇　公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へのご寄付は、税額控除の対象です。

個人の場合

最大 約50%の税控除

例えば10万円を寄付すると、最大で4万9000円の節税になります！

所得税控除	住民税控除	実質負担額［最小］
3万9,200円	9,800円	5万1,000円

税控除には限度額があります。確定申告が必要です。
住民税控除は、お住いの自治体が控除対象として当連盟を指定している場合に限ります。

法人の場合

別枠での損金算入＋地方税も減額

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟へのご寄付は、「特定公益増進法人に対する寄付金」として取り扱われ、一般の寄付金とは別枠で一定の限度額相当まで、損金算入限定額を計算することができます。

また、それに伴った法人税の減額によって、地方税も減額となります（損金算入限度額については、法人の所在地、資本金、所得の金額によって異なります）。

※詳しくは、お近くの税務署または都道府県税事務所、税理士等にご確認ください。

ご寄付に関するお問い合わせ

メール bokin@scout.or.jp

電話 03-6913-6262

公益財団法人として信頼される
ガバナンス体制に基づく健全な財務運営

当連盟の2024年度の総収支額は8.6億円となっています。

前年2023年度は第25回世界ジャンボリーへの参加で収支とも約5億円多い、13.7億円でしたが、当年は大きな国際大会もなかったため、収支ともに小規模となっています。

収入の基本的部分は加盟員登録料・会費で4.4億円（51%）です。その他主なものには、不動産賃貸・ブランド使用料・出版物収入など各種事業収入が1.6億円（18%）、共済事業収入1.4億円（17%）、補助金・寄付金等収入0.2億円（2%）となっています。

一方の支出については、公益事業全体として4.5億（55%）円を使用しております。

主な内訳としては教育関係事業に1.5億円（18%）、共済事業に1.3億円（16%）、普及広報事業に0.6億円、指導者養成事業に0.6億円、国際関連事業など0.6億円となっています。

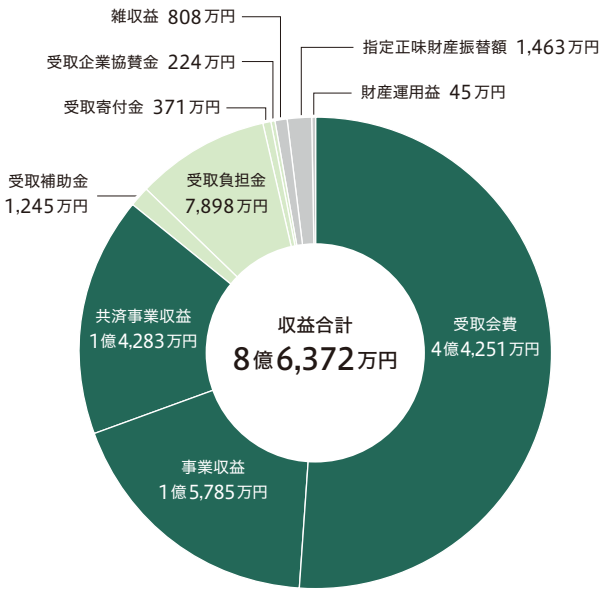
事務局人件費や法人本部経費として2.9億円（34%）を要していますが、野営場営繕目的の特定資産に0.2億円の繰り入れも行いました。

施設の営繕費はもとよりジャンボリーなど大きな大会の準備費など、持続可能な将来に向けた資金的備えもしながら、しっかりしたガバナンス体制のもと、収支相償の健全な財政運営に努めています。

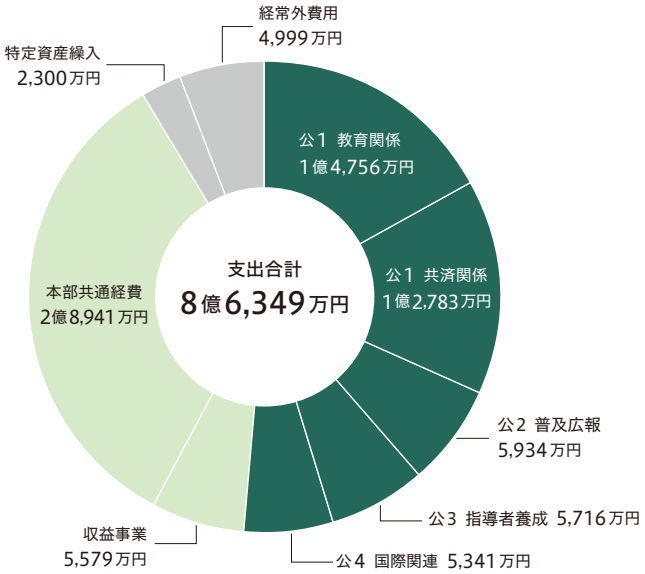
昨今、加盟員からの登録料収入が減少傾向にあり厳しい財政状況が続きますが、「人と地球によりよい未来を」つくるべく、スカウト運動に賛同いただける企業や個人へ広く呼びかけ、新しいファンドレイジングにも取り組みながら、引き続き安定した財政を目指してまいります。

2024年度決算

収益



費用



注）公益事業：公1から公4までの事業

Compass of Scouts
コンパス オブ スカウツ
令和7年6月11日発行

ボーイスカウトとは

ボーイスカウトは、人と地球によりよい未来をつくる世界最大級の青少年教育運動です。
世界176の国と地域で5,700万人以上の仲間が活動しています。

ボーイスカウトは、野外活動を中心とした各種プログラムを通じて、青少年が知識や技能を身につけ、
自主性や協調性を育むことで成長を支援します。
私たちは、人や社会のため、地球のために行動できる人材を育て、社会に送り出すことを目指しています。

ボーイスカウトには、多様な関わり方があります。

■ 年代別に展開されるスカウト活動

冒険は、笑顔とはじまる

ビーバースカウト［小学生の1年生の4月から］
カブスカウト［小学校の3年生の4月から］

未来を照らす冒険へ

ボーイスカウト［小学校6年生の4月から］
ベンチャースカウト［中学校3年生の9月から］
ローバースカウト［18歳から26歳］

■ 大人のあなたにも

未来を照らす冒険に、あなたの力を

子どもたちの体験を支える指導者を
募集しています

電子版でもご覧いただけます！
体験の申し込みもいただけます！

人と地球によりよい未来を

そなえよつねに
ボーイスカウト

発行 公益財団法人ボーイスカウト日本連盟
〒167-0022 東京都杉並区下井草4-4-3 電話 03（6913）6262（代）
www.scout.or.jp